

キリ ⇒ 和名 ニホンヒミズ
(モグラ科の哺乳類)



文書館
もんじょかん
動物記



書庫に棲む動物たち

21

産

「長門産物之内江戸被差登候地下図控」に載せる「キリ」の図（毛利家文庫 34 産業 3

さんぶつちょう

「産物帳」とは？

享保 20 年（1735）から数年をかけて、幕府の医師丹羽正伯は全国の動植物や鉱石についての実態調査を行うため、各藩に命じて「産物帳」ならびに彩色した「絵図註書」を作成させました。

産物を穀類、菜類、菌類（きのこ）、瓜類、菓類（くだもの）、木類、草類、竹類、魚類、貝類、鳥類、獣類、虫類、蛇類、金石類などのジャンルに分け、一点ずつ名称が記されました。現在、私たちが「産物」という言葉から連想する加工品や工業製品は含まれず、天然の、いわゆる一次産品が対象でした。

調査は、領内の産物を漏れなく書き上げさせる悉皆調査で、これにより、産物帳は享保・元文期における全国の動植物相を表す大変貴重なデータとな

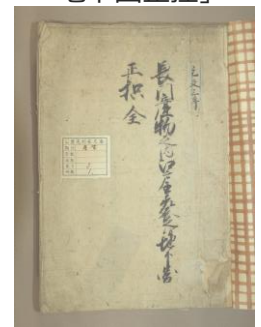
っています。中には、既に絶滅したものや稀少になったものも含まれています。

また、名称については、現地で呼ばれている通りに「かな書き」にされたため、動植物の地方名を知ることができます。

「絵図註書」は、地方独自の産物や名称だけでは不明な産物について、丹羽正伯が図と説明を求めたものです。精巧な図が残されたことにより、現在でも動植物の特定が可能となっています。

完成した「産物帳」と「絵図註書」は、全部で 1,000 冊を超える膨大なものであったと考えられますが、残念なことに提出された原本は現存していません。控えとして作成されたものが各地に残されており、当館も防長両国の産物帳作成に関する史料を数多く所蔵しています。

「長門産物之内江戸被差登候
地下図正控」



これは絵図の原図を再編集したものです。描いたのは藩の絵師吉山常房です。

各宰判から提出された現物の写生を基本としましたが、現物が得られない場合は、地元からの図や説明に基づいて作成されました。

後日の証拠のため、各宰判の産物方の担当者が「地下産物に相違無い」ことを記し、署名ならびに印を押しています。

【「産物帳」に描かれた生き物を観察しよう】

①魚類

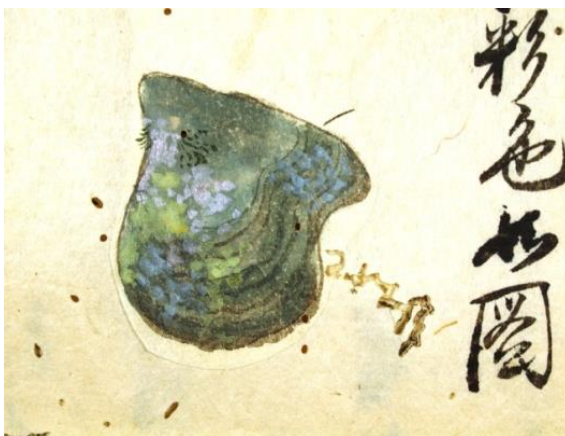


ミノウオ
和名 ミノカサゴ（カサゴ科）

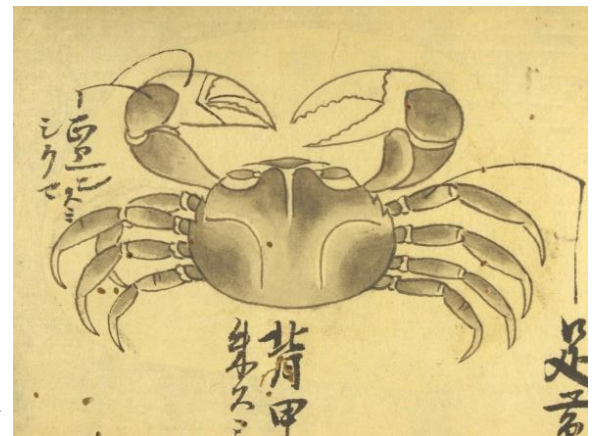


カモウチワ
和名 ウチワザメ（ウチワザメ科）

②貝類



アコヤガイ
和名アコヤガイ（ウグイスガイ科）



ツリンボウ

③鳥類

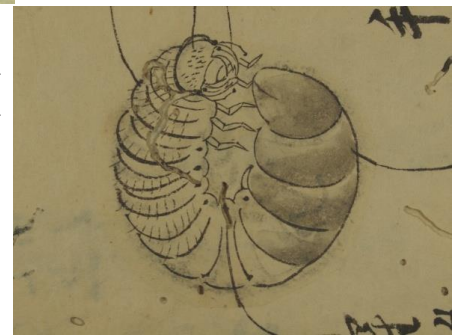


コウキチ
和名 ヤマセミ（カワセミ科）

④虫類



ガルモウジ
和名 ウスバカゲロウ類の幼虫（ウスバカゲロウ科）
* アリジゴクを作ります。



ノゲダ虫
和名 コガネムシ類の幼虫